

# 自・維与党で3分の2に対峙する日本共産党の役割果たそう 田村・たつみ・はたの・塩川、共産党4議席

近畿比例1議席・堀川、清水届かず

大阪一区竹内よしのり、健闘も議席届かず

2月8日投開票の衆議院選挙で、日本共産党大阪一区では、竹内よしのり候補を先頭に全力でたたかい、健闘しましたが残念ながら議席に届きませんでした。比例代表では近畿でたつみコータロー氏が二期目の当選を果たしましたが、堀川あきこ氏の議席を失う結果となりました。全体で現有8議席から4議席へ後退となりました。

「しんぶん赤旗」読者のみなさん、党後援会員、支持者のみなさんには、選挙戦最後までのご支援、ご協力をいただきましたことに、心から感謝を申し上げます。高市首相による戦後最短の解散強行は「自己都合解散」「疑惑逃れ解散」と指摘されました。「国論を二分するような政策で審判を仰ぐ」と表明しながらその中身を一切語らず「高市早苗が首相でいいか決めていただく」と「白紙委任」を迫るなか、選挙中に9条改憲に言及し、いつそうの右傾化が強く危惧されます。また、連立相手の維新は高市首相の「アクセル役」として悪政推進をすすめる狙いです。「国保逃れ」の追及から逃れ、3度目の都構想住民投票を引き合いに無駄なダブル選挙を行いました。市長選では過去最多の無効票（投票総数の13.77%）が投じられ、市民の怒りが示されました。選挙期間中、自民・維新への怒りの声はかつてなく寄せられました。

同時に、首相の高い支持率に各政党がなびき、また立憲民主党が消滅するもと、まさに「逆風」の中での選挙でもありました。その中で託していただいた一票の期待にこたえ、掲げた公約の実現、高市政権の「戦争国家づくり」に全力で立ち向かいます。

後退した時こそ、様々なご意見を賜り、捲土重来を期してまいります。日本共産党へよりいつそうのご支援を賜りますことを、心よりお願いいたします。



竹内よしのり氏は、選挙戦をたたかいぬいた翌日早朝に街頭に立ち、「自民党の議席が増えてもそれは悪政への『白紙委任』ではない。日本共産党は憲法を真ん中にすえた共同広げ、なにより力をつけて頑張ります」と訴えました。

（右写真、2月9日玉造駅にて）



二期目当選のたつみコータロー氏（真ん中）、比例候補で奮闘した清水ただし氏（右から二番目）、サポーターの方たち。（2月9日赤旗より）

大阪一区民報 NO. 23 2026年2月9日

発行：日本共産党大阪中央地区委員会

住所：大阪市中央区玉造 1-21-3 連絡先：6762-6671